

## イスラエル 今シーズンの柑橘類の輸出量は約35%減少

[FreshPlaza 2024年4月15日](#)

イスラエルの柑橘類輸出業者プラネットイスラエル社の輸出部長であるベツァレル・オハナ氏は、イスラエルの柑橘類の輸出量は今シーズンかなり減少したと話す。(以下「」は同氏の発言)

「ガザ地区での戦争を背景に、またその戦争の労働者不足への影響もあり、困難な柑橘類シーズンであった。そのため、2023/24年度シーズンの輸出量は約35%減の合計約7万8千トンと大幅に減少した。昨年の同時期には、第14週(4月上旬)までの柑橘類をすべて合わせた輸出量は12万トンであった。オットリマンダリンについては減少率がさらに高く、2024年の第14週までに輸出されたオットリは、昨年と比較して約38%減少した。第2位の輸出品であるサンライズ(スタールビー)レッドグレープフルーツは約21%減少した。労働者の不足はまた、毎週の出荷量を減少させ、出荷が長引くことにもつながった。」

これらの出荷量の減少による当然の副作用として引き合いが増加し、その結果、価格が上昇したとオハナ氏は説明する。「こうした数量の減少は、一玉一玉の強い需要とそれに見合った良い価格につながった。さらに、戦争の影響と地域の緊張の現れの一つとしてイスラエルの通貨が弱く、1米ドル当たりの国内通貨(NIS)での表示額が大きくなったため、国内通貨で示した輸出額も増えた。したがって、厳しい状況にもかかわらず、出荷シーズンは好ましい結末に近づいている。」

エジプト産の柑橘類が市場の状況を少しおかしくしているが、オハナ氏はイスラエル産が実際にエジプト産と直接競合しないことを確信している。

「エジプト産柑橘類の価格水準はイスラエル産の価格よりもはるかに低い。我々が市場から理解するところでは、エジプト産果実はイスラエル産とは異なる市場、すなわち特により安価な商品を求める客層に販売されている。イスラエルの柑橘類は品質の面で優位性があり、より良い品質のためにより多くのお金を払うことができるハイクラスの顧客に対応できると考えている。したがって、イスラエル産品とエジプト産品の間での競合はそれほど直接的ではない。」

紅海を取り巻く物流上の問題により、アジア市場へのグレープフルーツの出荷は特に困難になった。

「サンライズ(スタールビー)レッドグレープフルーツやスウィーティーグリーングレープフルーツなどの主な輸出先は日本、中国、韓国、香港、シンガポールなどの極東であり、紅海の危機は主に弊社のグレープフルーツの輸出に影響を与えた。イスラエルからヨーロッパ及びイスラエルから北米への輸送ではスエズ運河と紅海を通る必要がないため、物流に影響を受けなかった。ZIM、Cosco、MSC、Maerskなど、主要船会社はすべて予定どおりに稼働していた。まもなくオットリマンダリンを主体とする柑橘類の出荷シーズンが終了するが、大きな変化がなければ、結果は変わらないものと予想される。」

執筆者: ニック・ピーターズ